



種まく人になりましょう

「子どもは、伸びよう、伸びようとする存在である。」

私たちの大先輩の教師が言われた言葉です。毎日子どもたちと接していて、どの子ども「のびたい」という気持ちをもっていることがよくわかります。できないことができるようになった時、分らないことがわかるようになった時、子どもたちの顔は輝きます。その顔を見れることは、私たち大人（子どもの周りにはいる親・教師・地域）の大きな喜びです。

でも、いつもその笑顔が見れるわけではありません。何度やってもうまくいかないこと、こうなってほしいのにその方向に行かないこと、うまくいかずにあきらめてしまうことだってあります。子どもの笑顔が消え、落ち込んでしまう時もあります。そんな時どうしたらよいのでしょうか。

私は、大切なことは、①種をまき続けること、②子どもを励ますこと、その二つが大切ではないかと考えます。

① 種をまき続けること

A君は〇〇がきっかけで大きく伸びたけど、Bさんはそういかなかった。お姉ちゃんの時はいくまくいったけど、弟は反応が違った。一人一人違う人格・個性をもった人間ですから反応が違うのは当たり前です。うまくいかなかったからといってあきらめるのではなく、いろいろな種（きっかけや体験）を与え続けることが大切ではないでしょうか。その子の性格や状況、これまでの体験などをよく見てその子にあった種のまき方ができるようになると、芽の出る確率はうんと高くなります。まかない種は生えません。

② 子どもを励ますこと

あることをした（できなかった）子どもに対する声掛けは二通りあります。

「Aこれだけやったのにここまでしかできないの」か「Bここまでできるようになったね」のどちらかです。どちらにするかはその時の状況にもよりますが、概ねBの方が次につながっていく声掛けです。「明日もこの調子で頑張っているよ」と子どもを応援し、励ます立場に立つと、子どものちょっとした成長と一緒に喜んでいくことができます。

寒い中、ありがとうございます。

本校の自慢は元気がよく、素直な子どもたち、そしてどんな時も子どもたちを温かく見守ってくださる地域や保護者の皆様です。この頃特に寒さが厳しくなってきましたが、そんな中、毎朝交通指導に立ってくださったり、スクールペルパーで子どもたちを見守ってくださったりされる方がたくさんいらっしゃいます。

「ありがとうございますの気持ちを伝えたいね」と「スマイルタイム」で呼びかけたところ37名の子どもたち（全体の10分の1）が答えてくれました。その子たちと相談して、今、お手紙とカイロをお渡ししています。

みなさん、いつも本当にありがとうございます。風邪をひかれないように、体調の悪いときは無理をされず、できる範囲でよろしくお願いします。



糸つむぎ

2年生は、生活科の学習で1学期から「わた」を育てていました。先生も子どもも水やりを欠かさず、大切に育ててきた「わた」ができました。そして11月16日に、「糸つむぎの会」の皆様に来ていただき、糸つむぎをしました。子どもたちは、わたが糸になることにびっくりしたり喜んだりしていました。3学期はつむいだ糸をつかって世界にたった一つの手作りのしおりをつくっています。



防犯教室

12月21日、2学期の終業式の前に、防犯教室を行いました。折尾警察署のおまわりさんに来ていただき、不審者対応について、子どもたちにもわかりやすく話していただきました。おかげで、子どもたちは冬休みも無事に過ごすことができました。ルールを守り、自分の頭で考えることを大切にし、自分の身は自分で守る力を伸ばしてほしいと思います。

